



12/20  
(水)

行人岳運営委員会が寄付  
**発展の一助になれば**

12月20日、行人岳不動明王<sup>びよつ</sup>廟運営委員会（阿多靖直委員長）の末松直喜さんが委員長代理で町に寄付金を贈りました。

これは平成29年の町道行人岳線開通日を記念して、開通から毎年町に寄付してるものです。

末松さんは「空気が澄んだ日には、天草の島々や島原（雲仙普賢岳）、霧島まで行人岳から見渡せる。行人岳から見るご来光はとてもきれいなので、ぜひ行人岳に遊びに来てほしい。寄付金は景観整備や産業振興

川添町長に目録を手渡す末松さん（写真右）



など町の発展の一助になれば」と話し川添町長に目録を手渡しました。

12/21  
(木)

薄井漁港新加工場建設に伴う地鎮祭  
**特産ブリの生産拡大へ**

12月21日、薄井漁港の竹島で薄井漁港水産流通基盤（特定）整備工事の地鎮祭が行われ、漁協関係者など約50人が出席しました。

これは、竹島の老朽化したブリ加工場の建替えに伴う道路および用地に関わる地鎮祭で、新加工場は、東町漁業協同組合の養殖ブリ「鯨王」の販路拡大を目的に建設されます。

川添町長は「日本一の養殖ブリの生産量に対応できる加工場ができれば、さらに世界に受け入れられるブ



りとなる。町としても協力したい」とあいさつしました。同組合の長元信男組合長は「新加工場ができれば、海外への輸出拡大へとつながる。長島自慢の「味」を世界へ届けたい」と施設整備に期待を膨らませました。

12/23  
(土)

第1回離島交流卓球大会  
**スポーツを通して離島間の交流**

12月23日、獅子島小中学校体育館で第1回離島交流卓球大会を開催し、甑島の児童5人と獅子島の児童11人が参加しました。

これは、地理的環境から島外との交流機会の少ない離島小学生を対象に、卓球を通じて「島」と「島」の交流を図り、新たな人間形成や健全な青少年の育成を促進することで、将来を通じて離島地域の振興に寄与することを目的としています。

川添町長は「この大会は、離島甲子園をモデルに構想した。今後は、県の大会、全国の大会にしていきたいと思っている。夢の第一歩となる今大会を全力で戦い、交流を通して皆さんで楽しんでほしい」とあいさつし、開会式の後、選手らの白熱した試合に声援が飛び交い会場は熱気に包まれました。

優勝した岩下<sup>まはる</sup>真大君（獅子島小4年）は「初めての離島交流卓球大会で優勝できてとてもうれしかった。甑島のみんなと交流できて楽しかった。今後、甑島で開催されたら参加したい」と笑顔で話しました。

獅子島・甑島の子どもたちとの集合写真



全力で競技を行う子どもたち



結果は次のとおりです。

- 1位 岩下 真大 4年（獅子島卓球クラブ）
- 2位 杉原 健 6年（獅子島卓球クラブ）
- 3位 南園 壱咲 6年（上甑卓球クラブ）
- 3位 杉原 沙綾 3年（獅子島卓球クラブ）